

実施報告

令和7年度 多文化共生先進取組事例「体験塾」in名古屋

日時

令和7年10月29日(水)～30日(木)

参加者

地域国際化協会、自治体等より 17名

統括ファシリテーター 勝 千恵子 氏

(公益財団法人 名古屋国際センター 事業課主幹)

テーマ

「多文化共生のカギを握るキープレイスの実践」

内容

愛知県名古屋市の先進事例から学び、
その学びを各参加者の地元でどのように活かすかを
ワークショップで掘り下げる。



令和7年度

体験塾

in 名古屋



多文化共生のカギを握る キープレイスの実践

キープレイスとは？

人と人が出会い、つながり、信頼関係を築いていく“場”のこと。単なる物理的な空間ではなく、「ここなら安心できる」「ここなら話せる」と誰もが感じられる、地域の中の大切な拠点です。

体験塾では、実地研修を通して先進取組事例を学び、施策立案スキルの向上と共に、ネットワークの構築を図ります。名古屋市の取り組みを視察し、キープレイスの意義や可能性について理解を深めます。

また、自治体や国際交流協会の立場から、自らの地域でキープレイスとどのように連携し、支え合い、活用していけるのかを、ワークショップ形式で一緒に考えていきます。

日時
10/29(水)～30(木)

会場
愛知県名古屋市

対象
自治体、地域国際化協会、
市区町村国際交流協会、
その他NPO等関係団体の職員

対象
20名 ※申込み多数の場合は
調整させていただきます。

参加費
無料 ※ただし、交通費、宿泊費(各自手配)
食費は各自ご負担

【主催・問い合わせ先】
(一財)自治体国際化協会 多文化共生課
✉ tabunka@clair.or.jp
☎ 03-5213-1725

申込み(9月30日×)
<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/taiken.html>



プログラム概要(1日目)

10月29日(水)

■オリエンテーション

総括ファシリテーターの勝千恵子氏より、「キープレイス」について説明がありました。キープレイスとは、人々が出会い、つながり、安心して話せる地域の場で、多文化共生活動を支える重要な拠点です。

■(公財)名古屋国際センター

多言語情報提供や生活相談、日本語教室、ボランティア制度など、地域に根ざした多文化共生の取り組みを学びました。参加者は情報カウンターやライブラリーを見学して、地域住民や外国にルーツを持つ人々にとって身近な拠点であることを実感しました。

■(一社)DiVE.tv 活動紹介

代表理事の牧野佳奈子氏より、日本語教室や高校生向けイベント「It's ME Camp」など、多様な「場」をつくる活動についてお話いただきました。カフェ運営やSNS発信などの実践例を通して、地域と若者をつなぐ工夫やその意義を学びました。



プログラム概要(1日目)

10月29日(水)

■名古屋市立なごやか中学校

今年4月に開校した夜間中学校を訪問しました。夜間中学校は、外国にルーツを持つ方が日本語を学び、日本の社会についての理解を深める場として重要な役割を果たしています。佐村明生校長から、夜間中学校の設立経緯や運営体制について説明を受け、授業風景を見学しました。日本人と外国にルーツを持つ生徒が半数ずつ在籍し、幅広い年齢層の方が学ぶ姿から、地域での共生の可能性を感じました。多様な背景を持つ人々が共に学ぶ姿が印象的でした。

■ワークショップ&ふりかえり

勝氏のファシリテーションのもと、1日目の学びをグループで振り返りました。「地域によって外国人住民の増加をどう受け止めるか」「キープスペースの活用」「多文化共生の成果の見えにくさ」「ボランティア依存の解消」などについて意見を交わし、参加者からは「自分にできることから始めたい」との前向きな言葉が印象的でした。



プログラム概要(2日目)

10月30日(木)

■名古屋市港区役所・港防災センター

港区は名古屋市16区の中で外国人人口が最も多く、共に地域社会の一員として生活していくために、外国人住民が日本の慣習等を理解し、安心して暮らし、地域活動に参加できる環境づくりが課題とされています。港区の多文化共生に向けた取組について、港区役所区政部地域力推進課課長補佐の古地大祐様から講義を受け、「みなと外国人コミュニティパートナー」の活動も紹介されました。パートナーの方々から直接話を伺い、地域での支え合いの重要性を実感しました。港防災センターでは施設を見学し、防災を通じた安心安全なまちづくりを体感しました。

■NPO子どもと女性のイスラームの会 活動紹介

代表理事のマリアム戸谷玲子様から、子どもや女性を中心にイスラム教への理解を深める活動についてお話しいただき、ハラールフードの説明も受けました。エジプト料理レストラン「セドラ」で実際にハラールフード体験を行い、参加者は「美味しくて食べやすい」と感想を述べました。また、ハラール食材店「カセリヤ」にも立ち寄り、食文化を通じて地域での多文化共生の一例を学びました。



プログラム概要(2日目)

10月30日(木)

■名古屋港モスク

モスクを訪問し、イスラム教の基本的な考え方や礼拝の作法について学びました。モスクは礼拝の場であると同時に、誰でも訪問できる場所であるとの説明があり、日本語によるガイドブックも用意されているほか、国籍にとらわれない交流が図られているなど地域に開かれた場でもあることを体感する貴重な機会となりました。

■ワークショップ&ふりかえり

2日間の学びを振り返るセッションを行い、参加者は地域の課題や印象に残った体験を共有しました。交流館や市民センターの活用、レストランや礼拝所を活かした取組、地域住民と外国人住民の交流の場づくりなど、自分の地域での「キープレイス」の可能性について意見を交わしました。参加者は現場体験を通じ、データだけでは得られない理解を深め、自分の地域で具体的な行動を起こす意欲を高めるきっかけとなりました。



おわりに

外国人住民が日本の社会にスムーズに慣れ安心して暮らし、地域社会の一員として活躍できる環境づくりはますます重要となっています。今回の研修で得た学びや気づきは、参加者が自らの地域で具体的な取組を考え、実践していく上で貴重な指針となることが期待されます。

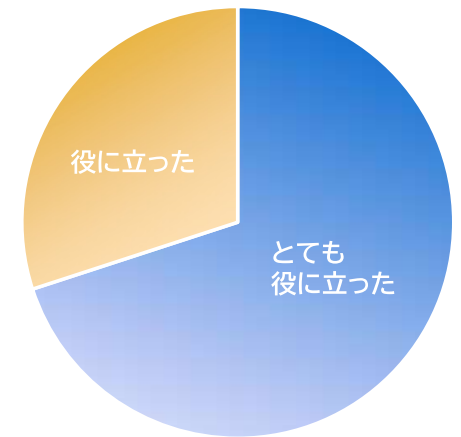
参加者の声

普段訪れることのない場所に行くことができ、とても貴重な経験となりました。文字や写真では伝わらないことを実際に見聞きでき、外国人やそれに関わる人たちの考えや生活を知ることができました。

なごやか中学校やモスクなど、実際に現場に行き、その場で働かれている方々にお話をうかがうことができたことが大変有意義で貴重でした。また、他の研修生とお話する機会も多く、情報共有や意見交換をすることができ、とてもありがたかったです。

キープレイスという場所に着目する方法を学び、自分の地域でも場所や組織・団体に着目する考え方を取り入れたいと思いました。また、当事者の意見をよく聞き、取り入れることが重要だとも学び、今後の事業組み立ての際に参考にしていきたいと考えています。

Q 体験塾の内容はどうでしたか



参加者の100%に満足いただけました。